日本人中医診療記
その 13

天津中医薬大学　**柴山周乃**

今年も，また暑い夏がやってきました。日本は冷夏の予報ですが，こちらはどうやら猛暑のようです。天津では，早くも 5 月 29 日に気温 40 度を記録しました。その日は講義がありましたが，わが校の古い校舎の教室には，悲しいかなエアコンがなく，シーリングファン（天井扇）の設備だけです。上にたまった熱い空気をかき混ぜるだけで，涼しくないどころか逆に熱風が教室に充満し，板書しながら髪から汗がぽとぽと落ちてきました。あまりの暑さに，私自身，頭がくらくらしましたし，見ると学生たちもぐったりしていましたので，その日は急遽，講義に代え DVD『仁』を鑑賞してもらいました。もちろん中国語字幕付きで，『仁』は医学生の彼らに大人気です。

6 月に入り，以前受けもっていた学生たちは修士課程を卒業，巣立ちの時季となりました。16 人の卒業生のうち，博士課程に進むのが 5 人。残りの 11 人のうち 4 人はなんとか就職先が見つかったものの，あとの 7 人はまだ就活中で，就職までの道のりはとても険しいようです。中医師資格を取得し，修士課程を卒業しても，相変わらずの就職難です。就職は年々難しくなり，博士学位を取得して

も就職できないということもあります。

そんななか，わが校の看護学部の就職率は今でも90%以上とかなり高く，中国全土の看護学部のなかで，ナンバーワンの就職率を誇っています。2000年に看護学部が創立されましたが，2001年度入学の第1期生の就職率は，なんと98%でした。今回は，全国に先駆け2009年に「老年看護学科」を設け，ユニークな教育をしている天津中医薬大学・看護学部（中国語では護理学院）についてお話したいと思います。看護学部・孟繁潔前部長（6月の人事異動により，現在は劉彦慧部長）と老年看護学科の胡燕先生に取材しました。

【天津中医薬大学・看護学部の現況】

1．**専門学科**：普通看護学科，国際看護学科，老年看護学科の3学科（今年9月より看護日本語専攻科を新設）。

2．**現在の学生数，およびクラス数**：本科生（4年間）1,770人，修士生（3年間）120人。博士過程については，今年7月，教育委員会に設立を申請予定。各学年，普通看護学科5クラス，国際看護学科2クラス，老年看護学科2クラス（2014年度より，普通看護学科2クラス，国際看護学科4クラスに変更）。各ク

ラス学生数は50人前後で，うち男子学生は15%，約７～８人。

３．**履修内容**：必修科目＝解剖学，生理学，薬理学，生物化学，西医各専門科，西医診断学などの西医学と，中医基礎Ⅰ・Ⅱ（各54時間，計108時間），中医看護学（中医臨床看護学36時間，中医養生学36時間）などの中医学。選択科目＝五官科，流行病，医学人類学，循証医学（EBM），国外救急学，看護管理学，心理研究方法など。中医と西医の比率は，約２：８。

４．**看護総合技能訓練**：「動脳・動手・動眼（脳・手・眼を動かす）」の３点に重点をおき，病案分析（内科，外科，婦人科，小児科，産婦人科），ＰＢＬ３～４週（中医各病症，西医病症＝内科，外科，小児科，急症）および実技を学ぶ。実技訓練では，清拭，筋肉注射，点滴，導尿など西医学の内容に加え，穴位注射，薫洗療法，拔罐療法，刮痧療法，煎薬法，薬熨法など中医の実技も学ぶ。

５．**病院見習，および実習**：普通看護学科，国際看護学科の学生は，２年のときに天津の病院にて見習（４週間）。最終学年の４年では，天津および全国の三甲医院（三級甲等医院＝病床501床以上の大病院）で40週間・計300時間実習を行う。各学生は，30カ所の病院を回り実習する。老年看護学科の学生は，１年のときに天津の養老施設でボランティア活動，２年のときに病院で基礎看護の見習（４週間），３年に養老施設で見習（４週間），４年では40週間・計300時間，病院および養老施設（３カ月）で実習する。

６．**特殊学科の特長**：①国際看護学科＝週に４コマ，基礎英語と看護英語を学ぶ。わが校と学術交流を結ぶオーストラリア・パースのCurtin大学や台湾の台北護理健康大学への留学制度がある。②老年看護学科＝看護学部は，天津市養老院，鶴童老人院ほか，各区養老院など複数の天津の養老機構と協議を結んでいる。老年看護学科は「指導教官２人制」を採用し，１人の学生

に対し学内と学外養老機構の２人の教官がつき指導を行う。薫洗療法，拔罐療法，刮痧療法など中医薬の知識があり，基本操作のできる学生たちは，高齢者から高い評価を得ている。また，日本と同じく高齢化が進む中国では，老年看護学科出身の学生は養老機構でたいへん歓迎され，就職活動開始前に就職が決まる学生は少なくない。

７．展望：① 2014 年度（９月開講）から看護学部にも看護日本語専攻科が設立される。今以上のグローバル化をはかり，国際的な人材育成に努める。② 2015 年の大学移転に伴い，看護学教学実訓センターの規模も大きく拡大される。ゆえに，看護学部組織と教師は，教学理念，カリキュラム，教学方法，教材作成および指導者の人材育成などの面でお互いに協力し，看護学部のさらなる発展に努め，国内の他の看護学部より常に一歩先をリードするポストを確立したい。

以上，取材データをもとに天津中医薬大学・看護学部の現況を紹介しました。

2014 年５月 27 日の読売新聞に「厚生労働省によると，外国の看護資格を持ち，日本の看護師国家試験の受験資格を認定された人は昨年度 195 人（EPA= 経済連携協定を除く）と，前年より 45 人増えて過去最多となった。中国が 152 人で８割弱を占める」とありました。実際に，大学附属病院の看護師たちから「日本で看護師をしたいけど，どうすればいいのかしら」と相談されたことがあり，日本に活躍の場を求める看護師は少なくありません。私は修士の３年間，大学附属病院の循環器，呼吸器，消化器，外科などの病棟で勉強しましたが，どの科の看護師もとてもプロ意識が高く，びっくりした記憶があります。また，衛生局や病院の試験が定期的にあるため，勉強会もよくしていました。そんな優秀で勤勉な人材ですので，

日本で就業したいという希望があるのなら，一番の難関である日本語をマスターし，ぜひ日本で活躍してほしいと思います。

この９月の看護日本語専攻科開設を前に，孟前部長から「臨床日本語」の講義を担当してほしいとのお話をいただきました。同じ漢字文化をもつ国ですが，医学用語はかなり違いがあり，私自身とても苦労しました。例えば，白・赤血球は中国語では白・紅細胞，狭心症は心絞痛，外来語にいたっては，ヘモグロビンが血紅蛋白，ステントが支架と，想像力を生かしてもなかなか正解にはたどりつけませんでした。もし講義を担当することになりましたら，自分の経験を活かし，未来の白衣の天使たちに，医学，日本の習慣，ホスピタリティーなど，いろいろなことを伝えていきたいと思います。

本号がお手元に届くころには，梅雨明けでしょうか。今年は冷夏との予報ですが，それでも日本特有の蒸し暑い夏と思います。皆さま，しっかりと水分補給をなさり，お元気でお過ごしください。祝夏安！

〔2014 年 6 月 23 日受理〕

プロフィール
柴山周乃（しばやま・ちかの）
愛知県名古屋市出身
1996 年 日本航空株式会社・国際客室乗員部退社
1999 年 天津中医学院（現天津中医薬大学）本科入学
2006 年 中華人民共和国・中医医師資格取得
2010 年 7 月 天津中医薬大学・中医内科学博士課程卒業
修士課程は天津中医薬大学第二付属病院・循環器内科杜武勲教授に師事，「糖尿病性心疾患の中医病機メカニズム及び臨床治療」を研究。
博士課程は天津中医薬大学・張伯礼学長に師事，「中医および漢方医学による心疾患・脳血管疾患治療」を研究。現在は，引き続き張伯礼学長に師事し外来で診察および中国人学生の講義を担当。